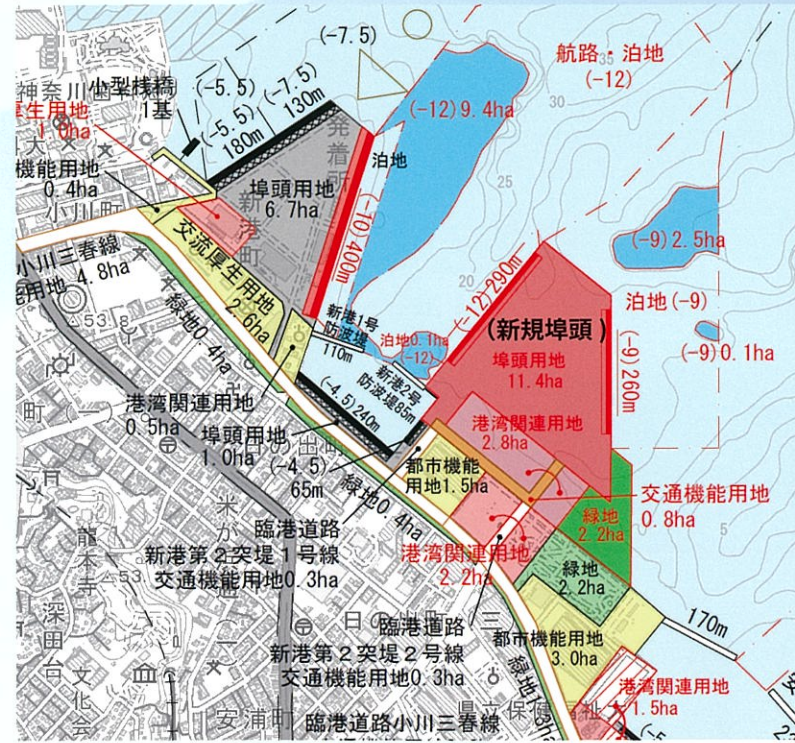


各地区の紹介

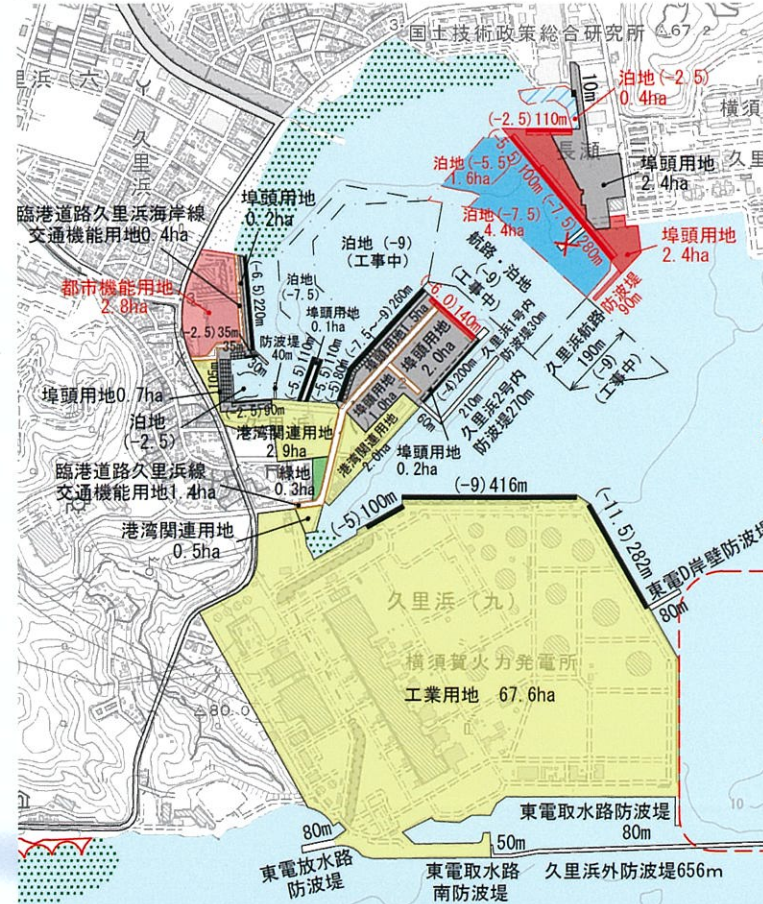
新港地区



SOLAS 条約に基づいた港湾施設保安計画に対応する国際ふ頭があり、完成自動車の輸出や冷凍マグロなど水産品の輸入が行われています。2021年7月には北九州港（福岡県）との間に長距離フェリーが就航し、首都圏～九州間の物流ルートや旅客にも利用されています。手狭な埠頭を外貿・内貿で使用するため、ふ頭内に共用部分を設け、時間によりエリアを変更するなど効率的な運用を行っています。

中心市街地に隣接し、無人島「猿島」、世界三大記念艦の一つである「三笠」が保存されている「三笠公園」（2027年4月リニューアルオープン）、横須賀の新鮮な食材が集まる「よこすかポートマーケット」など観光拠点があります。また隣接には、新規航路や更なる集荷を目指すために新たなふ頭を整備します。

久里浜地区



国土技術政策総合研究所・港湾空港技術研究所

東京湾の湾口部に位置し、「耐震強化岸壁」が整備されています。ふ頭内は SOLAS 条約に基づく国際貿易に対応し、冷凍マグロなどの水産品の輸入が行われています。

浜金谷港（千葉県）との間にフェリーが就航しており、隣には JERA の発電所があります。

2018年には、横須賀市の新しい観光拠点・地域振興の活動交流拠点として「みなとオアシス『ペリー久里浜』」が認定されました。

また、東京湾内の安全な船舶航行のためのタグポート基地や国土交通省などの研究機関があります。

追浜地区



主に完成自動車や自動車部品が取り扱われています。背後の工業用地には、大規模な企業が集積し、専用ふ頭をもつ工場や研究所では港湾活動が行われています。



平成地区



大規模地震に備える「耐震強化岸壁」が整備されています。周辺にはマンションのほか、「うみかぜ公園」や「海辺つり公園」といった港湾緑地や商業施設が立地しています。



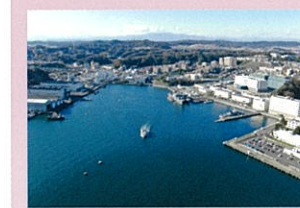
浦賀地区



江戸時代から中継貿易港として栄えた地区です。日本で唯一現存しているレンガ造りのドライドックがあり、浦賀東西を結ぶ渡船「愛宕丸（あたごまる）」が就航しています。「第二の開国」をテーマにドック周辺を文化・交流拠点として整備が予定されています。近接する浦賀駅とを結ぶペDESTリアンデッキ等の整備や、駅前交通広場の再編により、利便性・回遊性を高めます。宿泊・商業・交流機能等の導入によりにぎわいを創出するとともに、浦賀の「海」と「歴史」の魅力を生かした新たなまちづくりを目指します。



2007年に放置艇対策のためポートパークを整備しました。造船所や工場が立地しています。



横須賀港の中で戦後最初に整備がすすめられた地区で、捕鯨船の基地として栄えました。主に官公庁や海上自衛隊、米海軍が利用しています。



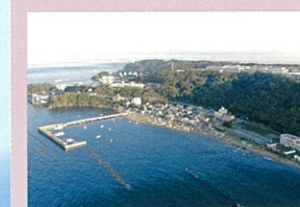
1865年にこの地区で横須賀製鉄所の建設が始まり、横須賀港の起源となっています。現在は主に海上自衛隊や米海軍が利用しています。



漁港があり、背後には住宅地や商業施設が立地しています。台風の影響などで護岸周辺が浸水してしまうため、2023年に高潮対策護岸を整備しました。



1995年・1996年の台風で、周辺一帯が浸水しました。これを防ぐため、国の直轄事業として、1998年から2005年にかけて、高潮対策護岸を整備しました。



自然の海浜や漁港があり、「横須賀美術館」では年間を通じて様々な展示が行われ、アートを楽しむことができます。



自然豊かな観音崎公園があり、公園内にはフランソワ・レオンス・ヴェルニーが設計した日本発の洋式灯台である「観音崎灯台」があります。



海岸線沿いに砂浜が広がっています。海岸侵食による背後地への被害を防ぐため、離岸堤などの整備を進めています。